

静脈血栓塞栓症(VTE)予防に関する国際共同声明 (仮訳)

静脈血栓塞栓症(VTE)は、回避可能な院内死亡の原因の第1位であり、国際的に重要な患者安全上の課題となっている。VTEは、入院中あるいは入院後3カ月以内に死亡する全患者の10%で、その直接死因となっている。高リスク患者の深部静脈血栓症(DVT)および肺塞栓症(PE)の予防と治療に関しては、有効性が実証された幾つかの措置が利用可能である。しかし、現在のところ、そのような有効な措置の恩恵を享受できる筈の患者の大多数がそれらの措置を受けていない。私たちは、VTEに関連して生じる健康被害を低減させるため、VTE予防のためのシステム全体にわたるアプローチを世界的な規模で適用することを支持する。このアプローチでは以下のことを目指す：

- VTEのリスクに関する一般人の関心と情報のレベルを高める。
- VTE予防についての医療専門職教育を改善する。
- 入院患者のVTE予防に関する体系的アプローチを策定する。
- すべての病院で公式な戦略を遂行するために、書面による病院全体としてのVTE予防方策を行う。
- VTEのベストプラクティス順守をモニターするためのシステムを策定する。
- 国内外のデータ収集におけるVTE評価基準を改善する。
- VTE予防を医療政策決定者における最重要事項とする。

VTEは、人を死に至らしめるだけでなく、血栓症から生還した患者の生活の質(QOL)に著しい悪影響をもたらす深刻な合併症を生じる可能性がある。VTE予防のための安全かつ効果的な方法が長年にわたって知られてきているにもかかわらず、VTE予防のベストプラクティスは、世界の多くの病院において、未だにその大部分が実施されていない。

この公衆衛生的課題に真に取り組む唯一の方法は、国の医療システムにおいて、一次、二次および三次の医療現場で実施可能なVTE予防策について、体系化され統合化されたアプローチの開発を優先させることしかない。

近年、VTEに関する人命および財政上の費用に関する議論において、院内発生のVTEによる回避可能な死亡と慢性的な不健康状態を低減させることが、達成可能であり、望ましいことがいくつかの国において明らかになってきた。VTE、およびその合併症である慢性静脈不全(CVI)の年間総費用推定額は、西欧諸国での7億2000万~10億米ドル¹から、米国での30億米ドルまで多様である。

現在、VTEが、世界各国の多くの医療制度において患者安全上の最優先事項となってきたことにより、世界中の臨床医が、国際的なVTE対策の範例で試みられ検証されてきたアプローチをモデルとするVTE予防のベストプラクティスを共有することを目的とした世界的な行動計画開発への支持を表明している。

参考文献

Jantet G. 英国における静脈病理学の社会経済的な影響 Phlebologie. 1992;45:433-7.

Ruckley CV. 慢性静脈不全、および下腿潰瘍の社会経済的な影響 Angiology. 1997;48:67-9

「VTE予防国際フォーラム」は、学びとベストプラクティスを共有し、意見や情報を交換することを目的に、政策決定者、臨床医、および複合的なチームのための類のないプラットフォームとして設立された。その主要な目的は、より効果的な治療とVTE予防によって患者のケアを改善することである。本フォーラムは、世界中の入院患者における回避可能な死亡を低減させるため、VTEを国の医療システムにおける最優先事項と見なすべき時であることに合意する。

確立したVTE予防プログラムを持つ国の医療および政策代表者、また、既存のプラクティスからの学習を望む人々に「VTE予防国際フォーラム」への参加を奨励する。2011年7月24日、京都(日本)における第23回国際血栓止血学会(ISTH)の期間中に、このフォーラムの設立総会が開催される。

運営委員会

議長：

Mr Andrew Gwynne 英国血栓塞栓症予防議員連盟議長
高久史磨 医療安全全国共同行動議長、医療の質・安全学会理事長

副議長：

Dr Roopen Arya 英国医療サービス VTEネットワーク議長(英国)
Dr James Douketis マクマスター大学内科学教授、セントジョセフ医療センター血管内科部長(カナダ)
Professor Greg Maynard カリフォルニア大学サンディエゴ校内科学教授(米国)

国際委員：

Anne Blumgart Secretary New Zealand VTE Prevention Steering Group; Honorary Clinical Lecturer, The School of Pharmacy, The University of Auckland (New Zealand)
富士武史 大阪厚生年金病院整形外科
榛澤和彦 新潟大学医学部第二外科/心臓血管外科、同災害・復興科学研究所
Samuel Z. Goldhaber, MD, North American Thrombosis Forum (USA)
Professor Beverley Hunt, Medical Director, Lifeblood; the Thrombosis Charity (England)
木下佳子 NTT東日本関東病院看護部
小林隆夫 浜松医療センター院長
小泉俊三 佐賀大学名誉教授、日本プライマリ・ケア連合学会副理事長
黒岩政之 北里大学医学部麻酔科講師
中村真潮 三重大学大学院医学系研究科循環器・腎臓内科学
中野健志 日本肺塞栓症研究会議長、三重大学名誉教授
渡辺真俊 厚生労働省
左近賢人 西宮市立中央病院外科
Professor Sebastian Schellong, Professor of Angiology, Director of the Centre of Vascular Diseases, University of Dresden, (Germany)
瀬尾憲正 香川大学医学部臨床教授、共同行動肺塞栓予防支援チーム代表
Dr Vinod Singh, Honorary Clinical Senior Lecturer in Medicine & Consultant physician in acute stroke and acute internal medicine, North Shore Hospital, Auckland (New Zealand)
Luke Slawomirski, Australian Commission on Safety & Quality in Healthcare (Australia)
上原鳴夫 東北大学医学系研究科教授、医療の質・安全学会副理事長
山田典一 三重大学大学院循環器内科学
保田知生 近畿大学医学部外科講師

事務局：

James Tyrrell (英国)、Poonam Arora (米国)、Tim Brown (英国)

後援：

VTE予防国際フォーラムは、英国VTE予防プログラムと医療安全全国共同行動が共催する患者安全イニシアティブの一つで、事務局を共同設置している。

バーリンガーインゲルハイム株式会社およびバイエル薬品株式会社からの教育的助成金により、第一回VTE予防国際フォーラムを円滑に開催できたことに感謝する。